

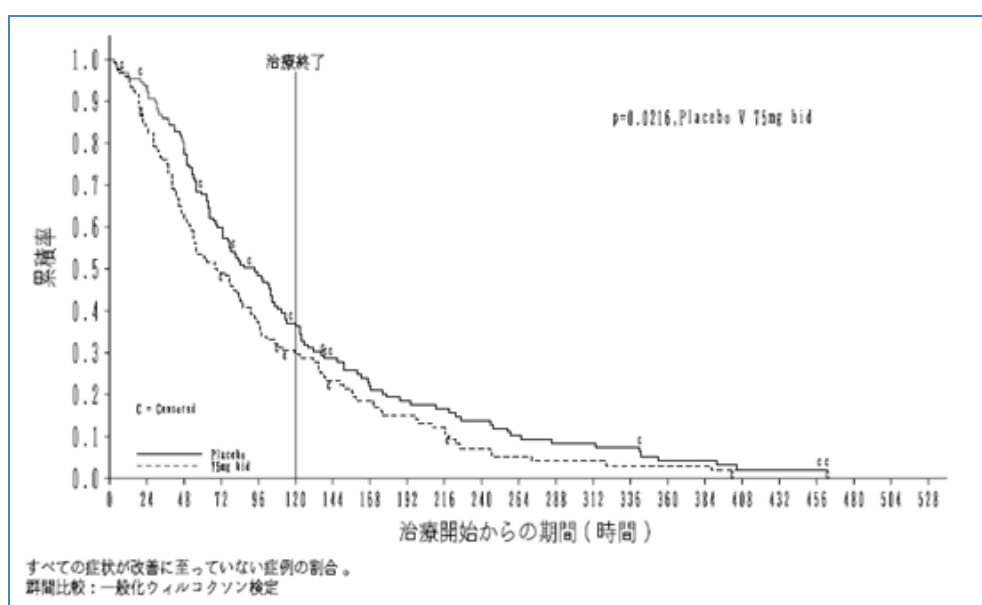
共同薬局だより ～そよかぜ～



2010/11/28
11号

特集：インフルエンザ(2)

インフルエンザのお薬はどれくらい効きますか？



上の表は (分かりにくいかもしれませんが)、インフルエンザの症状がどれくらい無くなったかを、**お薬を飲んだ方々と、飲まなかった方々と比較したグラフ**です。上側の線がお薬を飲まなかった方、下の線がお薬を飲んだ方です。(縦線が 120 時間です。左が開始時、症状が無くなると減っていきます)

簡単に要約すればインフルエンザの症状が、お薬を飲んだ方々は、飲まなかった方々と比較しておよそ 24 時間程度早く無くなっています。

インフルエンザの症状が取れるまでの時間

お薬を飲まない場合の平均

93時間



お薬を飲んだ場合の平均

70時間



また、インフルエンザに付随する症状 (気管支炎や喘息発作など) を緩和したという報告もあります。現在使われている治療薬はすべて同じ仕組みで効果を発揮するので、どの薬でも正しく使えばおおよそ上記のような効果を発揮すると考えられています。(上記のグラフはタミフル臨床試験のもので)

インフルエンザの治療薬の副作用について教えてください。

現在最も良く使われているインフルエンザ治療薬は「タミフル」(内服薬)ですが、同じ作用の仕組みで「リレンザ」「イナビル」(吸入薬)、「ラピアクタ」(注射薬)と言う合計4種類のお薬があります。アマンタジンというお薬もありましたが、新型インフルエンザに効果が無いため、今後使われることは無いでしょう。



(タミフルの特徴と注意)

タミフルはインフルエンザ治療薬で、唯一の内服薬です。内服という投与経路であるために、各種臓器に行き渡り、様々な副作用を起こす可能性があります。一番話題となっているのは「異常行動」です。

・異常行動は非常に少ない頻度。起きたらすぐに中止する。

タミフルの異常行動はマスコミ報道によって極めて大きく取り上げられ、2007年2月28日、「タミフル」服用後に仙台の中学生がマンションから転落死するなどの事故の報告が続いたことから、厚生労働省は「インフルエンザ治療に携わる医療関係者の皆様へ」という文書を発表しました。

「現段階でタミフルの安全性に重大な懸念があるとは考えておりません」としつつも、医療関係者に対し万が一の事故を防止するための予防的な対応として、特に小児・未成年者については、インフルエンザと診断され治療が開始された後は、タミフルの処方の有無を問わず、異常行動発現のおそれがあることから、「**自宅において療養を行う場合、(1)異常行動の発現のおそれについて説明すること、(2)少なくとも2日間、保護者等は小児・未成年者が一人にならないよう配慮すること**」と患者や家族に説明するよう、

注意を喚起することとなっています。その後10歳代の方に処方が制限されることになりました。

実際に副作用を経験することは稀ですが、万一、普段と違う行動が見られた場合には、服薬を中止して医療機関に相談してください。異常行動は、タミフルの副作用の可能性もありますが、インフルエンザの症状の可能性もあります。特に「意識障害」「呼吸困難」「脱水」は重症のサインなので、見逃さないようにして下さい。

(リレンザ・イナビルの副作用)

吸入薬は気道に直接作用し、気道上皮細胞からインフルエンザウイルスが遊離・増殖することを抑制します。血液中にはほんの僅かしか入りませんから、副作用は少ないとされています。しかし、実際にはタミフルと同様に異常行動の発生も少数例ですが報告されています。インフルエンザの症状と薬の副作用は鑑別が非常に難しく、現段階ではタミフルと同様に対応することが求められています。



(最後に)

インフルエンザは健常人では重症化することは殆どありません。しかし、慢性呼吸器疾患・慢性心疾患・糖尿病などの代謝性疾患・腎機能障害・ステロイド内服などによる免疫機能不全などの方、妊婦・乳幼児・高齢者は、重症化する可能性がある方々です。出来だけワクチンで罹患を予防しましょう。また、発症後7日間もしくは解熱後2日については、周囲に対する感染性を有していますので注意しましょう。